

The logo for azbil, featuring the word "azbil" in a bold, red, lowercase sans-serif font.

人を中心としたオートメーション

アズビル株式会社 証券コード: 6845(東証1部)

2016年度(2017年3月期)

第3四半期決算 補足説明資料

目次

1. 2016年度(2017年3月期) 第3四半期累計期間
連結業績
2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画
→ 2016年11月2日公表から修正なし
3. 株主の皆様への利益還元
→ 2016年5月13日公表から修正なし



アズビル株式会社は
2016年に創業110周年を迎えました。

2017年2月3日

1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しています。

2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しています。

B A: ビルディングオートメーション

A A: アドバンスオートメーション

L A: ライフオートメーション

3) azbilグループの売上高は、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向があります。

4) 業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

5) 以下の会社を連結範囲から除外しています。

北京銀泰永輝智能科技有限公司: 当第3四半期連結会計期間において、北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡し、当第3四半期連結会計期間末に連結の範囲から除外しております。

**1. 2016年度(2017年3月期)
第3四半期累計期間 連結業績**

1. 2016年度(2017年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 経営成績



〈対前年同期〉

- 受注高は、前年同期における受注計上範囲の見直しや大型案件の計上の反動、年後半までの円高影響等による海外での減少を主要因として減少。
- 売上高は、前年度末の受注残高の積み上がりを背景にBA事業、AA事業が増加し、全体として増加。
- 営業利益は、増収、利益体質改善、事業構造変革の成果、のれん償却費の減少により大きく増加。
- 経常利益は、営業利益の改善に加えて、第3四半期末における大幅な円安により為替差益を計上したことで増加。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、一部海外事業の見直しに伴い特別損失を計上したが、営業利益の改善や税金費用の減少もあって増加。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	1,943	2,146	△202	△9.4
売上高	1,789	1,764	+24	+1.4
国内	1,476	1,415	+61	+4.3
海外	312	349	△36	△10.5
売上総利益	625	614	+10	+1.8
%	34.9	34.8	+0.1P	
販売費及び一般管理費 (内のれん償却額)	526 (0)	544 (5)	△18 (△4)	△3.3
営業利益	99	69	+29	+41.6
%	5.5	4.0	+1.6P	
経常利益	105	70	+34	+49.3
税金等調整前四半期純利益	94	66	+28	+42.2
親会社株主に帰属する四半期純利益	66	34	+32	+93.1
%	3.7	2.0	+1.8P	

1. 2016年度(2017年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - BA事業



〈対前年同期〉

- 受注高は、国内の事業環境は堅調を維持しているが、前年同期における受注計上範囲の見直し※¹や大型案件計上の反動、年後半までの円高影響等による海外での減少※²を主要因に、2017年度竣工予定の新築案件が一時的に減少する影響も加わり、全体としては減少。
- 売上高は、新築建物向け※³並びに海外が円高影響から減少したが、国内既設建物向けとサービス分野が増加し、全体としても増加。
- セグメント利益は、一時的な引当の費用発生や現場ジョブ処理体制強化を目的とした人員活用配置の影響等があったが、採算性の良い既設・サービス分野での増収効果等により増加。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	946	1,080	△133	△12.3
売上高	787	776	+10	+1.3
セグメント利益	47	44	+2	+6.6
%	6.0	5.7	+0.3P	

(ご参考) のれん償却額	-	-	-	
--------------	---	---	---	--

- ※¹ 2015年度において、国内における複数年契約の受注計上範囲の見直しを実施。この見直しにより、2015年度において、複数年契約の受注計上額が一時的に大きく増加。(2014年度以前の既存契約分については、この受注範囲の見直しにより約40億円を2015年度において一括で計上している。)
- ※² 中国におけるBAの事業環境の変化から同国における事業見直しを実施し、1社を連結範囲から除外。これに伴い同社の受注残高を取り崩したことで受注額が減少。なお、特別損失として関係会社整理損を計上したが、税金費用の減少もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益への影響は限定的。
- ※³ 2017年度は一時的に新築案件の竣工が減少するため、進行基準により売上高も影響を受ける。2018年度からは再び新築案件の竣工が増加する見込み。

1. 2016年度(2017年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - AA事業



〈対前年同期〉

- 受注高は、前年同期における大型案件計上の反動及び為替の影響で減少したが、当第3四半期(10月～12月)では市況の回復もみられ、受注は実質的に増加。
- 売上高は、為替変動に伴う減収影響があったが、国内外での半導体製造装置市場の拡大や、前年度末におけるシステム及びサービス案件の受注残高の積み上がり等により国内素材関連分野が伸長して増加。
- セグメント利益は、利益体質改善の取組み及び国内での増収により、為替変動による減益影響を打ち消し、大きく増加。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	700	721	△20	△2.8
売上高	685	660	+25	+3.8
セグメント利益	44	24	+19	+81.0
%	6.5	3.7	+2.8P	

(ご参考) のれん償却額	0	1	△1	
--------------	---	---	----	--

1. 2016年度(2017年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - LA事業



〈対前年同期〉

- 受注高は、ガス・水道メータ及び住宅用全館空調の分野は増加したが、ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野が前年同期の大型案件計上の反動、クリーンルーム事業等の見直し※並びに為替の影響を受けて減少し、全体としても減少。
- 売上高は、ガス・水道メータ分野及び住宅用全館空調の分野が増加したが、上述の事業の見直し並びに円高を要因としてLSE分野が減少し、全体として減少。
- セグメント利益は、のれん償却費の減少並びに事業構造変革進捗によりLSE分野、住宅用全館空調分野が増益したことにより増加。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	304	351	△47	△13.4
売上高	325	335	△10	△3.0
セグメント利益	7	0	+6	-
%	2.2	0.2	+2.0P	

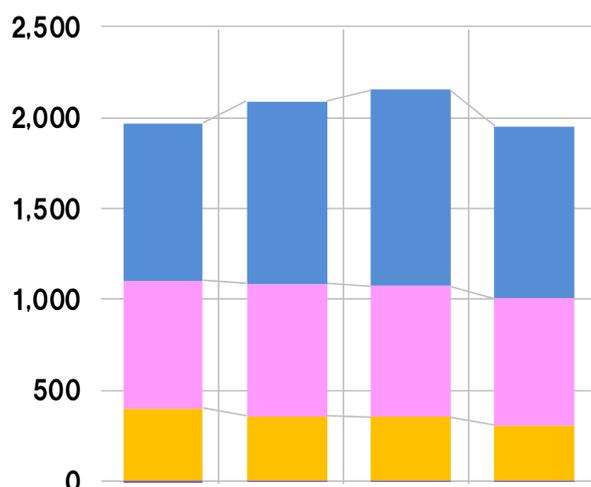
(ご参考) のれん償却額	-	3	△3	
--------------	---	---	----	--

※ LSE分野における事業構造変革の一環として、アズビルテルスター本体に加えて2016年度より同社のオランダ、ブラジルの関連子会社のクリーンルーム事業並びに装置事業の大幅な見直しを実施。

1. 2016年度(2017年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考]セグメント別受注高推移



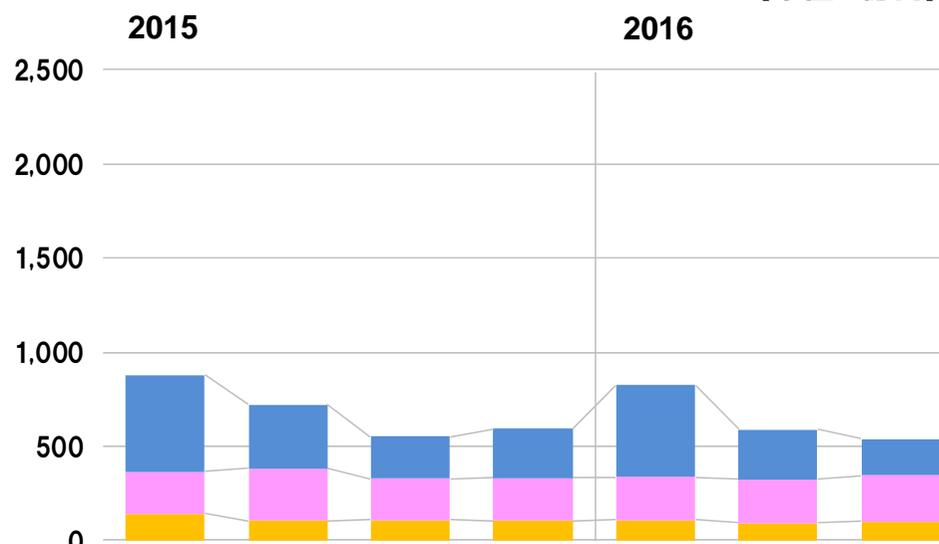
■ 同期比較



年度	2013 3Q累計	2014 3Q累計	2015 3Q累計	2016 3Q累計
■ BA事業	868	1,004 ^{※1}	1,080 ^{※2}	946
■ AA事業	703	725	721	700
■ LA事業	399	359 ^{※3}	351	304
連結	1,958	2,082	2,146	1,943

■ 四半期推移

[単位: 億円]



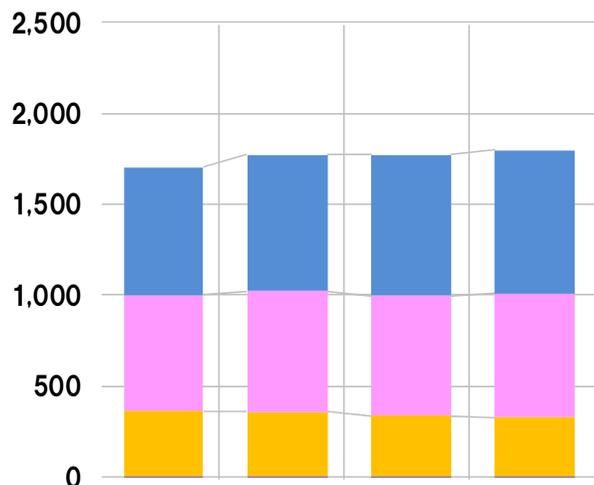
年度	2015				2016		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	514	341	224	258	489	262	195
■ AA事業	224	277	219	227	224	232	243
■ LA事業	140	103	108	105	111	93	100
連結	878	718	548	589	822	584	536

- ※1 契約期間が複数年となる大型のサービス案件を複数受注し、その複数年分の契約額を一括計上。
- ※2 2015年度において、国内における複数年契約の受注計上範囲の見直しを実施。この見直しにより、2015年度において、複数年契約の受注計上額が一時的に大きく増加。
- ※3 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外。受注高、売上高、セグメント利益については2014年度第3四半期までを連結。なお、セグメント利益への影響は軽微。

1. 2016年度(2017年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント別売上高推移



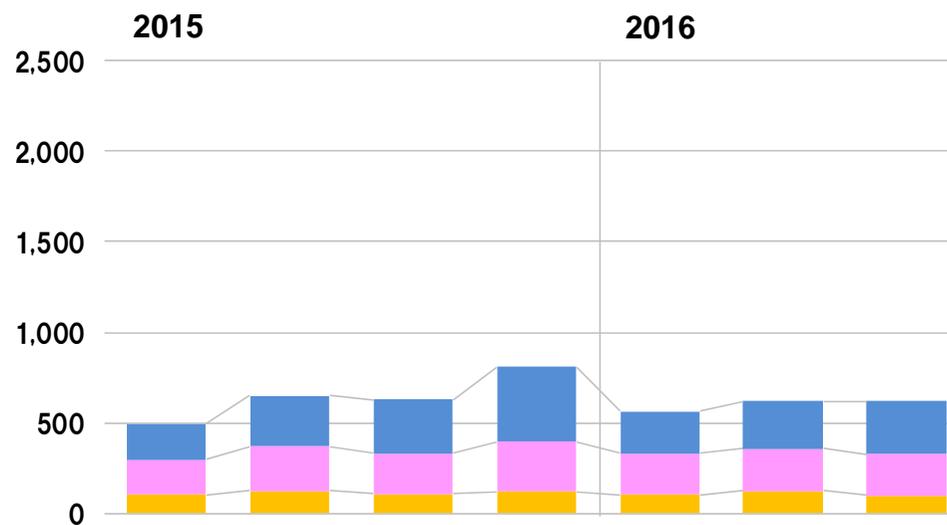
■ 同期比較



年度	2013 3Q累計	2014 3Q累計	2015 3Q累計	2016 3Q累計
■ BA事業	705	749	776	787
■ AA事業	637	664	660	685
■ LA事業	361	356	335	325
連結	1,696	1,765	1,764	1,789

■ 四半期推移

[単位: 億円]

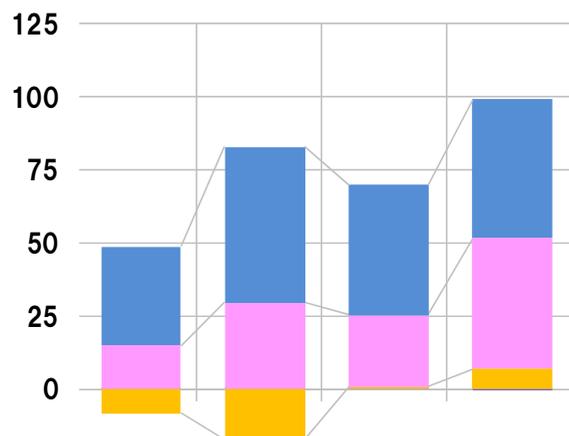


年度	2015				2016		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	198	283	294	411	233	260	292
■ AA事業	193	242	224	274	226	233	224
■ LA事業	102	124	108	120	103	123	99
連結	492	648	624	803	561	614	613

1. 2016年度(2017年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考]セグメント利益(営業利益)推移



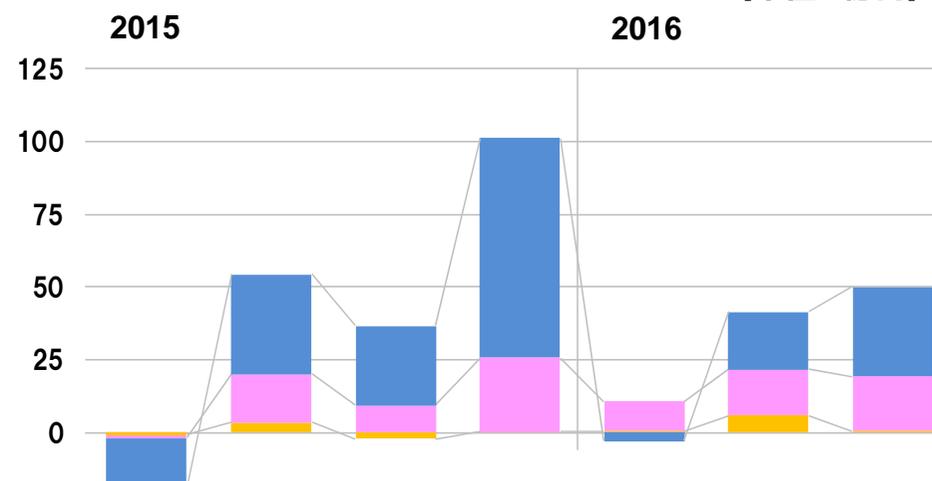
■ 同期比較



年度	2013 3Q累計	2014 3Q累計	2015 3Q累計	2016 3Q累計
■ BA事業	33	53	44	47
■ AA事業	14	29	24	44
■ LA事業	△8	△17	0	7
連結	40	65	69	99

■ 四半期推移

[単位: 億円]



年度	2015				2016		※
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	△17	34	27	75	△3	19	30
■ AA事業	△1	16	9	25	10	15	18
■ LA事業	△0	3	△2	0	0	5	0
連結	△19	54	34	101	7	41	49

※ azbilグループの第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の利益は、他の四半期連結会計期間に比べ低くなる傾向がありますが、当第3四半期連結会計期間におきましては、利益体質改善の取組みの成果や販売費及び一般管理費の減少を反映した結果になっております。

1. 2016年度(2017年3月期) 第3四半期累計期間 連結業績 海外エリア別売上高

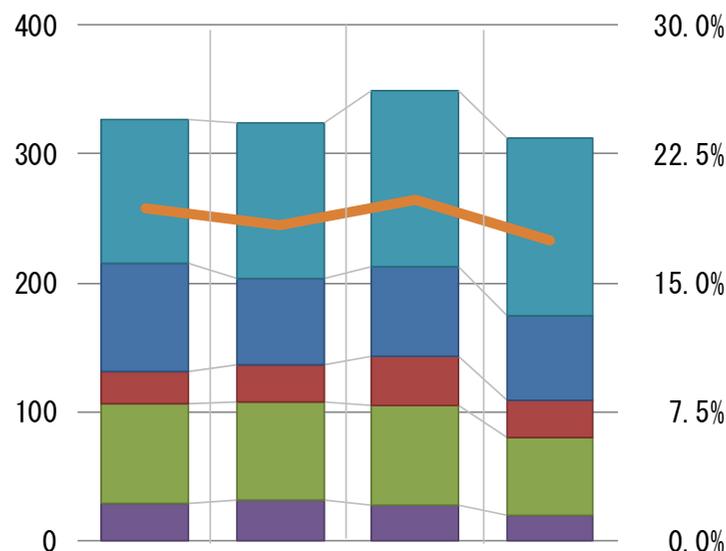


[単位: 億円]

<対前年同期>

海外売上高は、為替の影響を主因として前年同期比減収

- アジア地域は、為替の影響があるもののLA事業が増収し、全体としては微増。
- 中国は、BA事業とAA事業のプロダクト販売の分野が伸長したが、為替の影響から全体では減収。
- 北米は、為替の影響に加えてAA事業の装置メーカー向け販売の減少により、減収。
- 欧州は、LA事業のLSE分野における事業見直しと為替の影響から減収。



年度	2013 3Q累計	2014 3Q累計	2015 3Q累計	2016 3Q累計
■ アジア	111	121	137	138
■ 中国	83	67	69	64
■ 北米	24	28	37	29
■ 欧州	78	75	77	60
■ その他	28	31	27	19
連結	326	324	349	312

(ご参考)

— 海外売上高%	19.3%	18.4%	19.8%	17.5%
期中平均レート(USD)	96.84	102.94	120.99	108.59
期中平均レート(EUR)	127.48	139.50	134.75	121.10

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでいません。

※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用しています。

1. 2016年度(2017年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 財政状態



- 資産 現金及び預金の減少と売上債権の減少を主因に前年度末比175億円の減少。
- 負債 主に仕入債務、賞与引当金、未払法人税等が減少し、前年度末比186億円の減少。
- 純資産 配当金の支払があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の当期計上により、全体として前年度末比10億円の増加。

[単位: 億円]

	当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)		当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)
流動資産	1,813	2,008	△195	負債	835	1,021	△186
現金及び預金	433	482	△48	流動負債	705	889	△184
受取手形及び売掛金	806	917	△111	仕入債務	356	455	△99
たな卸資産	244	241	+3	短期借入金・社債	98	120	△21
その他	328	366	△38	その他	250	313	△63
固定資産	602	583	+19	固定負債	130	132	△1
有形固定資産	231	243	△11	長期借入金・社債	5	6	△0
無形固定資産	55	56	△1	その他	125	126	△1
投資その他の資産	315	282	+33	純資産	1,580	1,569	+10
				株主資本	1,481	1,466	+14
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	123	123	+0
				利益剰余金	1,299	1,284	+15
				自己株式	△46	△46	△0
				その他の包括利益累計額	80	83	△2
				非支配株主持分	17	19	△1
資産合計	2,415	2,591	△175	負債純資産合計	2,415	2,591	△175

(ご参考) 自己資本比率: 当期末 64.7%、前年度末 59.8 %

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画

→2016年11月2日公表から修正なし

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 業績計画



- 2016年度通期業績計画については、2016年11月2日発表の内容を据え置く。
- 当年度における利益改善の取組み等の施策は着実に進捗しており、市況にも回復傾向がみられることから、業績目標の確実な達成、更なる向上に向けて取り組む。

[単位：億円]

	当年度		前年度	対前年度	
	3Q累計	通期計画 (2016/11/02)		増減	増減%
売上高 (のれん償却額)	1,789 (0)	2,600 (0)	2,568 (6)	+31 (△6)	+1.2
営業利益 %	99 5.5	190 7.3	171 6.7	+18 +0.6P	+10.9
経常利益	105	180	166	+13	+8.3
親会社株主に帰属する当期純利益 %	66 3.7	115 4.4	82 3.2	+32 +1.2P	+39.1

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 セグメント別計画

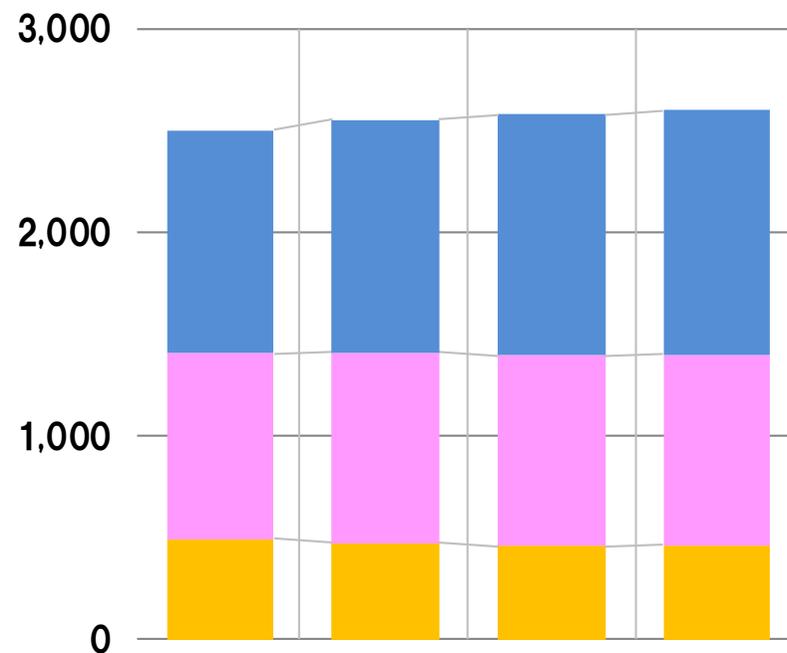
[単位: 億円]

	当年度		前年度	対前年度		
	3Q累計	通期計画 (2016/11/02)		増減	増減%	
■ B A事業	売上高	787	1,200	1,188	+11	+1.0
	(のれん償却額)	(-)	(-)	(-)	(-)	
	セグメント利益	47	125	120	+4	+4.0
	%	6.0	10.4	10.1	+0.3P	
■ A A事業	売上高	685	940	935	+4	+0.5
	(のれん償却額)	(0)	(0)	(1)	(Δ1)	
	セグメント利益	44	50	50	Δ0	Δ0.6
	%	6.5	5.3	5.4	Δ0.1P	
■ L A事業	売上高	325	460	456	+3	+0.8
	(のれん償却額)	(-)	(-)	(5)	(Δ5)	
	セグメント利益	7	15	0	+14	-
	%	2.2	3.3	0.2	+3.1P	
連結	売上高	1,789	2,600	2,568	+31	+1.2
	(のれん償却額)	(0)	(0)	(6)	(Δ6)	
	営業利益	99	190	171	+18	+10.9
	%	5.5	7.3	6.7	+0.6P	

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント別売上高 推移

azbil

[単位: 億円]



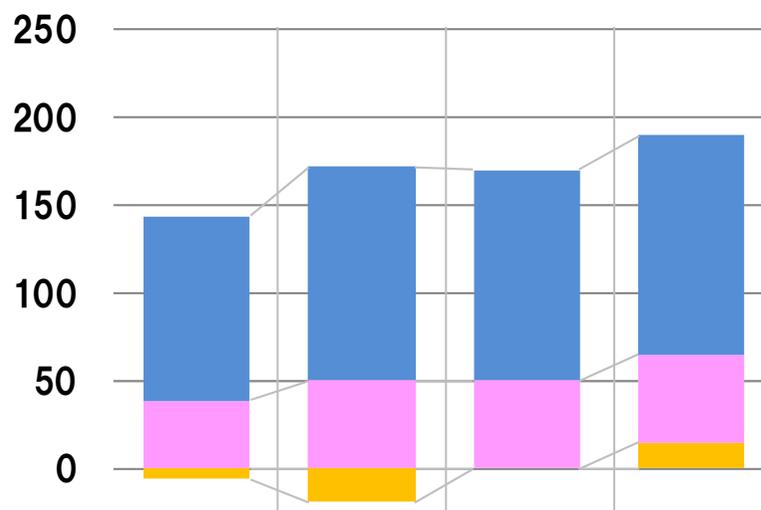
年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ BA事業	1,095	1,143	1,188	1,200
■ AA事業	908	936	935	940
■ LA事業	495	473*	456	460
連結	2,484	2,544	2,568	2,600

※ アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外。売上高、セグメント利益については2014年度第3四半期までを連結。なお、セグメント利益への影響は軽微。

2. 2016年度(2017年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]



年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ BA事業	105	122	120	125
■ AA事業	39	50	50	50
■ LA事業	△6	△19	0	15
連結	139	153	171	190

3. 株主の皆様への利益還元

→ 2016年5月13日公表から修正なし

3. 株主の皆様への利益還元 配当金



2016年度 配当計画

配当金（年間）：1株当たり74円
（普通配当2円増配、記念配当5円実施）

【基本方針】

株主の皆様への利益還元を重視し、連結業績、自己資本当期純利益率、純資産配当率の水準、将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案して、配当水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持する。

2016年度は、株主の皆様への一層の利益還元を進めるべく、配当水準のさらなる向上を図り、普通配当を2円増配し、さらに当社創業110周年及び新名称azbil導入10周年を迎えるにあたり、1株当たり5円の記念配当を実施予定。

■ 2016年度(中間配当/期末配当)計画

	2015年度		2016年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	33.5	33.5	37.0	37.0(計画)
配当性向	59.4%		47.1%	
純資産配当率 (DOE)	3.1%		3.4%	

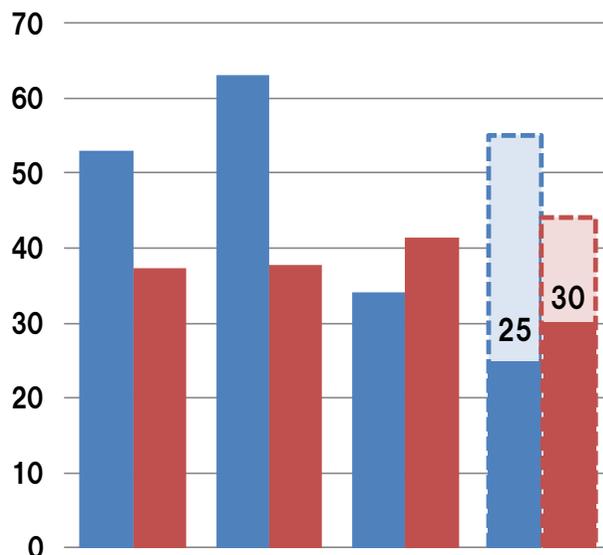
(ご参考) 2016年12月末時点 配当利回り 2.2%

補足資料

設備投資・減価償却費／研究開発費

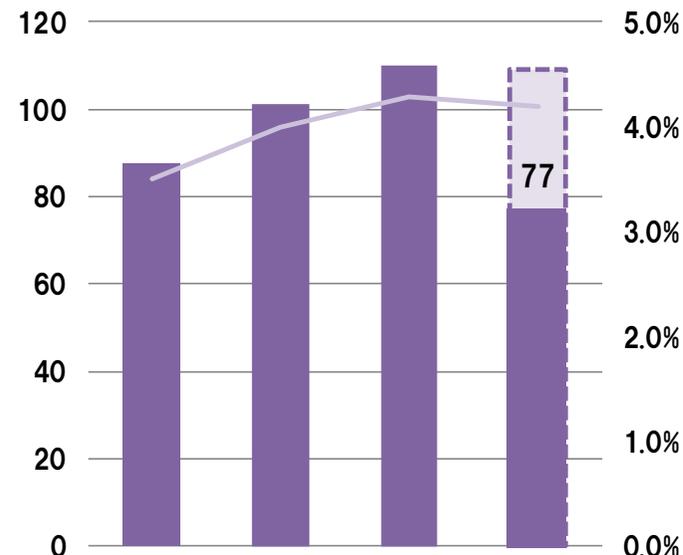
[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費



年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ 設備投資	53	63	34	55
■ 減価償却費	37	37	41	44

■ 研究開発費・研究開発費率



年度	2013	2014	2015	2016 (計画)
■ 研究開発費	87	101	110	109
— 研究開発費率	3.5%	4.0%	4.3%	4.2%

※ 2015年5月に稼働した基幹情報システムの更新に係る投資が2012年度から発生。これに加え、2014年度には海外における生産設備への投資を実施。
2016年度からは開発・生産体制の再編に係る投資を計画。

azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、
地球環境に貢献します。

アズビル株式会社は2016年に創業110周年を迎えました。



YAMATAKEで100年、azbilで10年。合わせて110年。
いつの時代も「人を中心としたオートメーション」で人々のシアワセを
第一に考えてきたazbilグループは、これからも計測と制御の技術のもと、
より一層の価値創造を進め、皆さまとともに歩んでまいります。

<お問い合わせ>

アズビル株式会社
グループ経営管理本部
IR室

電話: 03-6810-1031
メール: azbil-ir@azbil.com
URL: <http://www.azbil.com/jp/ir/>